

～ 一箱古本市 ～

活動の様子



企画・活動概要

2025年12月14日(日)11時～16時、BRANCH神戸学園都市・地下1階・スーパーマルハチ学園南店前において「一箱古本市」を開催した。一箱古本市とは、段ボール一箱分の古本を各自が持ち寄り、一日店主として販売する小規模な古書マーケットであり、商店街のにぎわい創出手法として拡がりを見ている。今回のイベントでは出店料を一箱500円・定員30店舗(先着順)とし、子ども店主枠を設けるなど年齢を問わず参加できる開かれた場を学生主導で設計した。学生が企画立案・出店者募集・広報・当日運営のすべてを主体的に担った。



経緯・背景・目的

本活動は、前年度(2024年度)に「研究演習Ⅰ」にてBRANCH神戸学園都市を対象として実施した来館者アンケート調査に端を発したものである。調査の中で「施設内に本屋がほしい」という地域住民の声が多くあがった。ただ、この声を実現することはむずかしい。書店の代わりになるわけではないが、本の売場をつつ子どもとコミュニケーションできる場をつくるのがよいのではという意見がセミで出た。こうしたなかで「一箱古本市」という取り組みを知り、古本を媒介とした世代間交流の創出、地域住民のニーズへの応答、施設の活性化への貢献を目指すという目的も固まった。



取り組む課題

本プロジェクトが向き合った課題は、大きく二つある。一つは書店へのニーズである。BRANCH神戸学園都市は大型商業施設でありながら書店が存在せず、地域住民の文化的ニーズに応えられていない現状があった。古本を循環させる場を創出することで、この課題に向き合うことを試みた。もう一つは来館者層の偏りである。未就学児・小学生は保護者とともに来館するが、中学生以降は足が遠のく傾向がある。大学生が幼少期に読んだ本を地域の子どもの手渡しで販売することで、施設内での世代間交流を生み出し、子どもたちにとっての思い出の場として施設への愛着と継続的な利用につなげることを目指した。



本学(学生)の役割

学生は企画から当日運営まで、すべての段階で中心的な役割を担った。企画段階では前年度の調査データをもとにイベントのコンセプトを考え、施設担当者との交渉・調整を行った。準備段階ではポスター・チラシの制作、SNSでの広報、出店者の募集と受付管理を担当した。当日は会場の設営・受付・来場者への対応・売上の集計など、運営のすべてを学生が主体となって行った。出店者や来場者とのやりとりも学生が直接対応し、現場での臨機応変な判断も求められた。教員はプロジェクト全体への助言にとどまり、企画・実施・振り返りという一連の流れを学生自身が責任をもって進める体制をとった。



活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

当日は約500名が来場し、売上は約5万円を記録した。絵本を中心に子どもから高齢者まで幅広い世代が本を購入し、「本の世代間リレー」というコンセプトが実現した。学生は本活動を通じて、調査結果を自ら実践に転換する「主体性」、施設担当者や出店者など多様なステークホルダーとの交渉・連携を通じた「働きかけ力」、地域ニーズと施設課題を組み合わせて解決策を導く「課題解決力」を実践から身につけたように思われる。「発表して終わり」だった従来の演習スタイルから「行動で変える」へと意識が転換した点が、最も重要な成長といえる。



指導教員および関係者の紹介

<指導教員>

<関係者・企業等>



商学部
マーケティング学科
准教授
新 雅史(アラタ マサフミ)
＜専門・担当科目等＞
商店街研究

ブランチ神戸学園都市
テナント会会長
船越 秀樹(フナコシ ヒデキ)